

令和4年度

# せいろう幼稚園実践集録



5歳児「運動会 がんばるぞ！ エイエイオー！」



聖籠町立せいろう幼稚園

## はじめに

聖籠町の新しい子育てシステム導入により、新生せいろう幼稚園のスタートとなりました。これまでの町立園で培ってきた幼児教育の継続と社会の変化・保護者ニーズに合わせた幼児教育の充実が求められています。

せいろう幼稚園では、子ども一人ひとりの個性や発達、興味・関心を大切にしながら、遊びや活動を通して「生活する力」「かかわる力」「学ぶ力」を育てています。幼児の成長は、教師の意図的・計画的な保育の積み重ねによるものであることから、職員同士、互いに認め合い、足りないところは補い合い、力を合わせて保育の充実に向けて取り組んできました。また、せいろう幼稚園が唯一の町立園としての役割を果たせるよう、町幼児教育センターの大きな支援を受けながら、自分たちの保育力や資質・指導力の向上を目指し園内研修を進めてきました。この実践集録は、その過程が記されているだけでなく、幼児教育への熱い思いやプライド、子ども達の成長への願いも込められたものでもあります。

私立認定こども園に町職員として派遣されている先生方も、この実践集録を参考にそれぞれの園における教育の充実が図られるとともに、職員の資質・指導力の向上に大いに活用され、町子ども達にとって必要な育ちを考えていく一助になることを願っています。

最後になりますが、せいろう幼稚園の研究保育協議会において貴重なご指導をいただきました新潟大学教育実践学研究科教授中島伸子様、下越教育事務所学校支援第二課指導主事小池満喜子様に、心より感謝申し上げます。

せいろう幼稚園 園長 西村 美紀



## 園内研修

### 重点目標 ①「思いを伝えながら遊ぶ子」の育成に向けて

- 時期や育ちに合わせた活動の場を設け、日々の遊びを充実させる。
- 公開保育を通して有効な手立てや環境について協議し、幼児理解を深める。
- 振り返りをし、成果や課題を確認する。



### 「砂遊び」と「ごっこ遊び」に視点を当てて

思いを伝えながら遊ぶためには、自らが主体的に環境にかかわり、じっくり遊ぶことが大事である。自分のやりたい遊びに満足感や充実感を味わいながら、同じ場で遊ぶ友達とのかかわりが生まれ、友達は自分の思いを言動で表現するという段階を踏まえ、まずは誰もが体験してほしい「砂遊び」と、かかわることで楽しさの増す「ごっこ遊び」を取り上げることにした。

「砂遊び」と「ごっこ遊び」について学年毎の指導計画を作成し、日々の遊びを充実させるとともに、町の『町立園・私立園・小学校合同研究保育協議会』において保育を公開し、指導力の向上に努めてきた。

5歳児 砂遊び



3歳児 砂遊び



4歳児 ごっこ遊び





	4月	5月	6月
経験やせたいこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と一緒に、砂遊びの楽しさを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりに見立てて遊ぶ。</li> <li>・砂の感触を楽しむ。(手から裸足へ)</li> <li>・自分のやりたいことをじっくり楽しむ。</li> <li>・砂、泥、水の感触や不思議さを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のやりたいことをじっくり楽しむ。</li> <li>・砂、泥、水の感触や不思議さを感じる。</li> </ul>
物の設定	<p>&lt;人数分&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スコップ</li> <li>・お茶碗</li> </ul> <p>(使いたい時に、貸し借りなどせず道具を使えるために)</p> <p>&lt;学年の人数の半分&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バケツ</li> </ul>	<p>&lt;見立てを楽しんでほしい時&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→型抜き、スプーン(人数分)</li> <li>→テーブル(作ったものを並べて楽しめるように)</li> </ul> <p>&lt;砂の感触を楽しんでほしい時&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→スコップ(人数の3分の1)</li> </ul> <p>&lt;自分のやりたいことをじっくり楽しんでほしい時&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→バケツ(人数分、しかし様子を見て対応)</li> <li>・泥んこセット</li> <li>・水を入れるタライ2個</li> </ul>	左に同じ
場の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年少組だけの砂場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候を見て、砂場を濡らしておく。</li> <li>・片付ける時は、子ども達が物を丁寧に扱えるようカゴを置く高さに配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水や泥が苦手な子用の場所を確保し、その子たちも安心して楽しめる場とする。</li> </ul>
教師の意図的な関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに遊び出せるように、朝から砂場に道具を出しておく。</li> <li>・4月上旬は子どもとの繋がりを作る為にも、その子の遊びに寄り添い、同じことをする。</li> <li>・4月上旬～中旬は、子どもが作ったものを褒めたり、簡単なやり取りをしたりして一緒に楽しむ。</li> <li>・4月下旬から、教師が率先して砂での遊び方(山作り、ごちそうなどの見立て等)のモデルとなるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂→泥→水の段階を踏んだ経験が出来るようにする。</li> <li>・茶碗だけではなく、いろいろな形の型抜きを使い見立て遊びのイメージを広げる。</li> <li>・さらさらの砂と濡れた砂の違いに気付けるよう、教師が言葉にしたり、子どもに触らせたりする。</li> <li>・汚れることが苦手な子に対して、教師がお団子を作って渡したり、さりげなく泥のついた手で触ったりなどして、「汚れても大丈夫、それより楽しい」という経験を取り入れいく。</li> <li>・教師自身が感じた感覚や楽しさ、イメージを言葉にする。「トロトロだね」「温かい」「ブルドーザーみたいだね」「辛いね、美味しいね」など子どもがしていることについても、どんどん言葉にしてあげる。分からなくなったら、子どもが言った言葉を繰り返す。</li> <li>・じっくり自分なりに試したり、工夫したりして楽しんでいる子に対しては、見守りを意識する。無理に声を掛けない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※その日の気温によって何を楽しませたいのか考え、砂場の道具の数の調整やタライの水の量に配慮していく。</li> <li>・水の感触を楽しめるように、温泉やプールのイメージから穴を掘り、足を入れるなどして楽しめるようにする。</li> <li>・遊ぶ時間を十分確保して楽しめるよう砂泥遊びでは、道具を洗って片付けや、着替えをすることも考え、時間に余裕を持つ。</li> </ul>



# 4歳児 エンジョイ砂場！！

	4月	5月	6月
経験させたいこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や友達と一緒に3歳児の時に楽しんだ事を思い出しながら砂場で安心して簡単な見立てを行って楽しむ。</li> <li>教師と一緒に手で穴を掘る、山を作る事を通して土の感触や力加減を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手や足で砂の感触を味わいながら楽しむ。</li> <li>水を使っでの砂遊びで土の変化を感じてほしい。</li> <li>友達や年長のやっていることを見て自分もやってみようとしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな砂の変化に気付く。(砂、泥、赤土)</li> <li>自分なりに試したりしながら、繰り返し砂遊びを楽しむ。</li> <li>友達と同じ場でじっくり遊ぶ。</li> </ul>
物の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーブル</li> <li>皿、茶碗</li> <li>スプーン</li> <li>型ぬき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浅めの皿(5月上旬～)</li> <li>バケツ(5月中旬～)</li> <li>個人持ちのペットボトル</li> <li>スコップ(小)</li> <li>スコップ(大)</li> <li>→年長がいらない時に使う</li> <li>テーブルや低めの椅子(多め)</li> <li>タライに入れた水(5月上旬は少な目)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タライに入れた水(5月3週目くらいから6月にかけては自由に入れられる量)</li> <li>おぼん</li> <li>浅めの皿など</li> </ul>
場の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>すぐ遊べる環境(砂場近くに皿や茶碗を置いたテーブルを設定する)</li> <li>4月後半、砂場を半分濡らしておく。→見立て遊びの幅(濡れている砂と乾いている砂を違うものに見立てる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年長のやっていることが見える場</li> <li>自分達だけでじっくり楽しめる日の確保が大事！全員で外に出る日を設定する。→散っていた子どもたちも砂遊びを楽しむきっかけに！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂場と赤土への行き来が出来る環境の設定</li> <li>たくさん繰り返し作る事や自分なりに試すが出来る環境設定</li> </ul>
教師の意図的な関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもがやっていることに対して教師がたくさん反応し、「またやろう」「見て欲しい」という気持ちになるようにしていく。(特にごちそう作りや小さな山作り、穴掘りなど)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年長がやっている事を意図して見たり、時には年長に聞いたりする機会を作る。</li> <li>2～3人で遊びを楽しめる場を作り、自分が感じた事を近くにいる友達に言えるようにする</li> <li>テーブルは点在するが、近くの友達のしていることを教師が言葉にすることで、真似してみようと思えるようにする。</li> <li>砂や泥の感触や形の変化を子どもと一緒に言葉にしたり、時には「〇〇したら△△になったね」と教師が声にし子どもの気付きにつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤土の場を意図して設定し、きっかけを作る。(赤土の付近にもタライ、テーブルを設定)</li> <li>赤土の感触(固い→溶ける→トロトロ→固まる)を自分で試しながら気づけるように声を掛ける。</li> <li>ダイナミックに砂遊びを楽しむ子(年長側)と見立て遊びを楽しむ子(小屋側)にして遊びによって分ける。</li> </ul>

# 5歳児 エンジョイ砂場！！

	4月	5月	6月
経験させたいこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂遊びを通して教師や友達と繋がり、同じ遊びを楽しむ。</li> <li>・年中の頃にやっていた砂遊びや去年の年長がしていた砂遊びを思い出せるきっかけとなる遊び。(山づくり、トンネル)</li> </ul> <p>※5歳児ならではの砂の感触や気付きを声に出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友達と同じ思いで砂場を楽しみながら自分の思いを声に出し、友達と一緒に遊ぶ。</li> <li>・山にできる限界の高さや水を流した時の現象に気付き自分の思いを声に出す。(5月中旬から6月)</li> <li>・成功や失敗から「どうしたらいいかな?」と、教師や友達と一緒に工夫する。(5月後半から6月)</li> <li>・友達のやっている事を見て真似したり自分でもやってみたりする。</li> <li>・2～3人の集団で自分の思いを声に出し、友達と一緒に作る。</li> <li>・教師の橋渡しがあり、自分の思いを友達に伝えたり、友達の思いを知ったりしながら遊びを楽しむ。</li> </ul>	
物の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャベルは用意するが、基本的には手や裸足で砂を感じる事を大切にす。</li> </ul> <p>※4月は手で山を作ったり穴を掘る事を大切にす。物は<u>少なく</u>する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スコップ…トンネルなど穴を開ける時、細かい作業で使用</li> <li>・シャベル…友達と同じ物を持ち、大きな山を作る時に使用</li> <li>・バケツ…水汲み、砂運び</li> <li>・雨樋…水を流して水が砂に吸い込まれる事に気付く、子ども達と相談して出す。(教師から)</li> <li>・タライ…水汲み用や友達と協力して大量の水を流す時に使用</li> <li>・ブルーシート…水が砂に吸い込まれないように使用 (R4年度 子どもからのアイディア)</li> <li>・すりこぎ棒とすり鉢。(色水用)</li> </ul> <p>※手で潰す経験を繰り返した後に道具を出す。</p>	
場の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のしている事に目が向くような場所設定。</li> <li>・教師を中心として、子ども達のやっている事にすぐ反応できる砂場の範囲。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2～3人の友達と同じ思いで山や川を作り、自分の思いを出せる環境や場の設定をする。</li> <li>・山川づくりのような大きい場が必要な集団と泥団子や色水など小規模の中で楽しむ場を用意。</li> <li>・色水で使う用の水と山川で使う用の水を分ける。</li> </ul> <p>※綺麗な水で色水をしたいという子どもの声が出てから。</p>	
教師の意図的な関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の気付きや声に共感し、砂場への興味を引出す。</li> <li>・T:「こうしたらどうなるかな?」 C:「やってみよう!」を大切にし、子どもが自らやってみたくなるような声掛け。(6月まで)</li> <li>・教師を中心として、個々が自分なりに砂遊びを楽しめる場の設定をする。</li> <li>・全員に経験してほしいことであるが、無理に入れない。教師が子どもの興味を引き出し、興味を持った子から遊びを広げていく。</li> <li>・過去にしていた遊びを思い出せるような声掛け。</li> <li>・砂場でできる事(大きな山・水の流れる道や壁など)を教師が見本を見せて興味を引く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの声に共感しながら、周りの友達にも伝わるような配慮。橋渡し。(6月まで)</li> <li>・教師の橋渡しから自分の思いを友達に伝え、相手の思いを知り「じゃあどうしようか?」と相談したりして目的を共通にしたりする。(5月下旬から6月)</li> <li>・砂場遊びに途中から参加したいがなかなか入れない子どもの姿も予想し、その子達には4月の教師の関わりが大切になる。</li> <li>・山川作りの場と泥団子や色水など小規模の場は、目が届きすぐに声を掛けられる位置を大切にす。</li> <li>・砂場遊びでどんな遊びが展開されているのかなど、クラス集会の時に子どもを通して知らせることで、周りの子ども達も興味をもてるようにする。</li> <li>・子ども達の考えを具体的に分かりやすく整理して伝える事で、遊びの目的を子ども達自身が持ち、自分たちで遊びを楽しむよう配慮する。</li> <li>・2～3人の中で自分の思いを伝える経験を繰り返し、友達に自分の思いを伝えられるよう橋渡しなどをして支える。</li> </ul>	

	1学期	2学期		3学期
	1～3期	4期	5期	6期
主な実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>①興味のある場所に行ったり、物で遊んだりする。</li> <li>②個々の遊びをしていますが、たまに近くの子に言葉をかける。</li> <li>③周りの子の遊びを見て、同じことをしようとする。</li> <li>④自分の好きな物、居心地の良い場で過ごす。</li> <li>⑤絵本や手遊び、リズムを通して、教師やクラスの友達と簡単ななりきり遊びを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①1学期楽しんでいた遊びを思い出して遊ぶ。</li> <li>②好きな遊びや興味のある遊びを繰り返す。</li> <li>③自分なりになりきって、教師と遊ぶ。</li> <li>④教師や友達がしている遊びを見て、真似してやってみようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①好きな遊びや友達を見つけ、繰り返し遊ぶ。</li> <li>②周りに目が向いてくるので、自分なりになりきって遊ぶ中で、友達と関わろうとする。</li> <li>③色々な場面で自分の思いが出てくる時期。思いを通したくてトラブルになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自分のなりたいものになって、友達と一緒にいることを喜ぶ。</li> <li>②友達と同じものになりきって遊ぶ。</li> <li>③お正月の獅子舞や年中、年長組の遊びを真似しようとする。</li> </ul>
教師の意図・配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>①遊び出しやすいように、遊びかけの環境を用意しておく。(お皿を並べる、鍋にごちそうを入れておく)</li> <li>①同じ場にいても子どもは個々の対応を求めているので、一人ひとりに言葉を返していくようにする。</li> <li>②教師が相手の思いを具体的な言葉にして、橋渡しをする。</li> <li>③やりたいことをすぐにできるように、物はクラスの人数の半分をすぐ出せるように準備しておく。</li> <li>④おもちゃを分け、新たな場を作ってあげることによって好きな遊びを安心してじっくりできるようにする。</li> <li>⑤誰でもわかる身近な動物や虫など、簡単ななりきり遊びをする機会を設けていく。</li> <li>⑤教師は、どの子の表現も受け止める言葉を掛けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①1学期と同じ環境設定にし、安心して遊び出せるようにする。</li> <li>②「見て見て」「できたよ」「食べて」など遊びの中で教師に認めて欲しい気持ちが出てくるので、一人ひとりの思いを受け止めていく。</li> <li>③教師も一緒になりきって動き、教師自身が遊びを楽しんでいく。</li> <li>④友達と同じ物を欲しがることが予想されるので、道具を準備しておく。</li> <li>④遊びに興味があるけれど入れない子には、教師から遊びに誘って、一緒に楽しめるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①好きな遊びが見つからない子には、まずはその子の好きな遊びを教師と一緒に楽しみ、認めていく。</li> <li>①遊びを無理に発展させるのではなく、子どもと一緒に繰り返し楽しんでいくことが大切。</li> <li>②まずは教師も一緒になりきりを楽しむ。</li> <li>②その子が何になりきっているのか、周りの友達にもわかるように「ネコさんどこ行くの？」などと言葉を掛けていく。</li> <li>②なりきりがより楽しめるように、子どもの声を拾いながら、遊びに必要な小道具などを一緒に作ったり、出したりしていく。</li> <li>③その子の思いを言葉にして受け止め、友達に橋渡ししていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自分のなりたいものにならざるように、小道具等は準備しておく。</li> <li>①友達と一緒に遊ぶ姿から「仲良しだね」「友達と遊ぶと楽しいね」など、友達と遊ぶ楽しさを言葉にして、意識できるようにする。</li> <li>②友達と同じなりきりをしたいという思いを大切に、小道具と一緒に準備したり、教師も一緒になりきって仲間に入れてもらえるよう支えたりする。</li> <li>③行事や年中、年長組の発表会を見た際には、子ども達が真似して楽しめるように、音楽や簡単なお面などを準備する。</li> </ul>
一口メモ	<p>・教師と部屋が安心できる場となることがベスト！</p>	<p>・2学期のスタートは再度、安心できる教師、友達、場を意識していくと良い！</p>	<p>・クラス全員が、自分の好きな遊びを見つける事が大切！</p> <p>・教師も一緒にないきろう！</p>	<p>・子ども達が「やりたい」と思った時にすぐ出来るようにする。</p> <p>・機会を逃さない！</p>



# 4歳児 これて安心ごっこ遊び！！

	1学期		2学期		3学期	
	1～2期		3期	4期	5期	6期
主な実態	<p>①進級した喜びでウキウキしているが、環境の変化などから不安・戸惑い・緊張など様々な気持ちを表している。</p> <p>①遊びをじっくりするというよりも、自分の気に入った遊びや場を見つけていく。</p> <p>②KGW 明けへ教師と一緒に遊んだり周りの友達の遊びを見たりして、やりたい遊びが見つかり自分から動き出すようになってくる。</p> <p>③友達と一緒に遊びたい気持ちが膨らむが、自分の思いを通そうとしたり、誤解したり、上手く言葉に表せなかったりして、手が出るなどの単純になる。</p>	<p>①友達や教師と一緒に遊んだり夏休み中の話をしたりする。</p> <p>②年長兄のやっていることに興味を持ち、同じことをしたがる。</p> <p>③遊びの中で個々の思いの違いから、ちょっとしたトラブルが増える。(入れてくれない・何にもしてないのに～した・～って言った)</p>	<p>①友達と一緒に遊ぼうとする気持ちが強くなる。</p> <p>②前日に遊んだ場で続きをしようとして、仲間が集まってきたりするようになる。</p> <p>③同じ物を持ったり身に付けたりすることで、仲間という気持ちで遊びに加わる。</p> <p>④年長兄や友達のやっていることを真似たり、遊びに必要な物や場を作ったりしなから遊ぶ。</p> <p>⑤嫌なこと、困ったことなどがあっても言えなかった子が、教師や気の合う友達になら言えるようになる。</p> <p>⑥なりきり遊びが始まるが、教師がいなくなると遊びが続かない。</p>	<p>①自分たちで遊びを面白くする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道具を動かす。</li> <li>・必要な物を持ち込む。</li> <li>・簡単なルールを作る。</li> </ul> <p>・ごっこ遊びで自分のなりたいものになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お客さんになって出かける。</li> </ul> <p>②発表会后、決まった友達だけでなく他の友達との関わりがみられ、友達関係に広がりが出てくる。</p>	<p>①仲良しの友達だけでなく、色々な友達と遊ぶようになる。</p>	
担任の意図・配慮	<p>①年少の時に楽しんだ遊びや誰でも入れる場を設定しておく(ままごと、ウレタン積木、粘土)</p> <p>①②自分たちの身近な所や動物を再現できる場を設定し、イメージをしながら真似できるようにする(ご飯作り、お風呂、掃除、お布団、猫、犬、恐竜など)</p> <p>②砂場でも型ぬきなどを使って見立て遊びが出来るようにする。テーブルを多めにし、2～3人の中で簡単なごっこ遊びを楽しめるようにする。</p> <p>③自分の思いだけで動く事が多いので、教師はお互いの話を聞き、相手の思いの橋渡しをしていく。(4歳児通年を通して意識していく事！)</p>	<p>①夏休み中に楽しんだ事が再現できるような環境や教材を準備しておく。</p> <p>①誰でも寄れる場として遊びの場を設定し、友達と関わる事が楽しく感じられるようにする。</p> <p>②年長の遊びを見に行く機会を意図して作る。また教師から年長がしていたことを伝えるなどする。</p> <p>③トラブルは思いを受け止めつつ、子どもたちが納得できるような提案を教師からしてみる。(トラブルがあったから辞めたとならないように！切り替え大事！)</p>	<p>①②ごっこ遊びの中で繰り返し同じ表現が楽しめるように教師と一緒に同じ動きや表現を楽しむ。(言葉や動き)</p> <p>子どもたちかなりきって表現できるように、そのイメージにつながる分かりやすく言いやすい言葉を、教師も一緒に繰り返し楽しんでいく。また、自分たちの基地的な場所がある事で、教師が離れても自分たちで遊べるようにする。(マットや衝立有効！)</p> <p>③同じ物(いい物でなくてOK)を持つことで2～3人で同じ気持ちでなりきれる。個人持ちにする物(自分自身の表現につながる)、クラス全体で使う物(友達と同じ気持ちで動いたり遊んだりする)を用意する。</p> <p>④同じ場にいる、イメージはバラバラな事も多い。教師は個々のつぶやきを拾い、繰り返すことで簡単なイメージが同じ場にいる友達に伝わるようにしていく。</p> <p>⑤友達が「～しよう」と言った声に反応して動けるように、「いいね～しよう」と教師も沢山共感、同意していく。</p> <p>⑥もっとやりたくなるような具体的な遊びの目的を明確にし、教師は場を離れる。</p> <p>⑥子どもがよりなりきれるような言葉をかける。例：①パーティーの準備が終わったらまた戻ってくるね。</p>	<p>①子ども達からの声も受け止め、なりきって楽しめるようにする。イメージが広げられるように、使えそうな遊具や用具を出しておいたり、子どものやりたい事を引き出ししたり、教師のアイデアを提案したりする。</p> <p>②発表会を終え、友達のやったことを見て色々な表現を楽しめるような時間を作る。自分のやりたいたい所に行くことで、違う友達と関わる事にもつながる。(場合によっては個人の物を作ってあずけてもよい)</p>	<p>①気の合う友達だけではなく、自分の好きな遊びを通して色々な友達と関わられるようにしていく。2学期の経験から、少人数の中で「～しよう」「そうだね」と少しずつ相手を意識して遊ぶことが楽しくなるように、教師は様子を見ながら橋渡しをしたり、楽しかった思いを受け止めたりしていく。</p> <p>個々が経験したこと、見たことなどを遊びの中で再現出来るように、子ども達の声聞き、教材を準備していく。</p>	
一コマ七	<p>・個々が自分の好きな遊びを見つかけられるとベスト！</p>	<p>・この時期はすぐ遊び出せる環境！ 例：海…海があって、魚があって、網があって。</p> <p>・1人の子には誰でも入れる場を活用して気の合う友達を見つけてあげよう！</p>	<p>・教師は考えや表現の固定おしないうがいよ！</p> <p>・イメージと動態につながる言葉(ニー、ポッポー、など)</p>	<p>・なりきる、遊び始めるまでに時間を掛けない！ (同じ所に身に着けるものを置くなど)</p>	<p>・イメージが豊かになっていくよ！子ども達の声聞いてみて！</p>	

# 5歳児 これぞ安心ごっこ遊び！！

	1学期	2学期		3学期
	1～2期	3期	4期	5期～6期
主なる実態	<p>①前のクラスの友達や気の合う友達と一緒にいることが嬉しくて、したい遊びを求めて転々として遊ぶ姿もある。</p> <p>②一方的ではあるが自分の思いを伝える子、なかなか声が出ない子がいる。</p> <p>③2～3人のかたまりで興味のある遊びを楽しむようになり、前日の続きをしようとする。</p> <p>④人数が多すぎると、自分の思いが友達に伝わらない、言いにくい、遊びが定まらずグダグダになり遊びが終わってしまうなどの姿が予想される。</p>	<p>①1学期に楽しんでいた遊びを思い出してやろうとする。夏休み中に見たこと、経験した遊びを友達としようとする子もいる。</p> <p>②一つの遊びの場で大勢の友達が集まって遊ぼうとする。</p> <p>③自分の思ったことをどんどん言う子、言われて黙ってしまう子もいる。</p>	<p>①「ああした方がいい」「こうした方がいい」と自分たちの考えを出し、工夫して作ったり、友達に教えたりする。</p> <p>②遊びに必要な物を作り、自分のイメージした事を実現することで、なりきり遊びが楽しくなる。</p> <p>③木の実、種とりなど、たくさん集めることを喜び、遊びに使おうとする。</p> <p>④文字や数への興味が大きくなってくる。</p>	<p>①自分の思いを言ったり相手の思いを受け入れたりしながら、遊びを進めていく。</p> <p>②友達の思いを受け入れられず、遊びが楽しめない。</p>
教師の意図・配慮	<p>①年中の頃に楽しんでいた、ままごと道具などを設定しておく。</p> <p>①同じ場にいる友達と遊んで楽しかったという思いに繋がるよう、遊びによって仕切りを用意する。</p> <p>①友達と同じ物を持って一緒になりきり遊びを楽しめるようにする。</p> <p>②③④2～3人の集まりを意識し、友達同士の思いの伝え合いを大切にする。思いを伝える事で友達のやっている事が分かり、同じごっこ遊びを楽しめるようにしていく。</p>	<p>①夏休み中に楽しんだ事が再現できるような環境や教材を準備しておく。</p> <p>①子どもが楽しかった経験の話を聞いたり、教師も一緒に遊んだりしながら、イメージを広げ、ごっこ遊びにつなげる。</p> <p>例：海という大きいイメージから泳ぐ or 魚釣り or BQ というように選択肢を広げる。</p> <p>②③一人になる子への配慮として、その子の好きな事を探りその子から遊びを発信できるように支える。興味を持った周りの友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにする。</p> <p>②③入れる人数や遊びを壊す子などの存在もある為、教師の配慮が必須。</p> <p>②③子ども同士での話し合いや思いの伝え合いは限界がある。教師が橋渡しや子ども同士の話合いを整理し、一人ひとりが思いを出せるよう支える。</p>	<p>①③子どもからのアイディアは沢山出るが、「どうやって作る?」「何かいる」と子どもが自分達で考え、工夫して遊びを進めていけるようにする。</p> <p>②自分たちが十分に楽しむ時間を保障し、「もっとこうしたい」という気持ちを引き出す。</p> <p>②子ども達同士で話し合う様子を見守り、必要な時は教師が入り遊びの方向を定めたりイメージが共有できるように支えたりする。</p> <p>②同じイメージで遊んでいるかを把握する為に、子どもの声を聞く。イメージを共有できていない時は、子ども達同士で教え合えるよう支える。</p> <p>④ひらがな表を部屋に貼り、見て書くことができるようにする。書くことを嫌にならないように教師が手を添え一緒に書く。遊びの中でひらがなに触れる機会を作る。</p>	<p>①一人一人が納得して遊びを楽しんでいるのかを表情から読み取ったり、聞き出したりする。</p> <p>①遊びに納得していない時には、自分の思いを相手に伝えるきっかけをつくりみんなが納得して遊びを進めていけるようにする。</p> <p>①よりなりきりの気持ちが高まり、楽しめるような本物に似た道具や衣装と一緒に作ったり準備したりする。</p> <p>②思いを受け入れられないから無視するのではなく、言葉で返していくよう伝える。また、時には周りの友達に投げかけみんなで問題を共有し、遊びを楽しめるようにする。</p>
一口メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具や場所をよく考えよう!</li> <li>・教師も一緒になりきって遊ぼう!</li> <li>・人数を良く考えてみよう。どうすれば遊びが長くかな?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良しの友達で固めると思いを言いやすいよ!</li> <li>・1学期を思い出して…2～3人で遊んでみよう!</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごっこ遊びを楽しめるように…本物にないきれるように教師からのアドバイスもいよいよ!</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が納得して遊びを楽しんでいるのか把握が大切!</li> </ul>

# 5歳児研究保育協議会ワークシート

社会生活との関わり

健康な心と体

道徳性・規範意識の芽生え

思考力の芽生え

自立心

※遊びの動画を見て、「幼児期の終わりまでに育てほしい  
10の姿」だと思われるところ  
⇒黄色い付箋に書いて貼ってください

自然との関わり・生命尊重

※それが小学校のどういうところにつながっていくか  
⇒ピンクの付箋に書いて貼ってください

協同性

数量や図形、標識や文字  
などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現



## せいろう稚園「5歳児研究保育協議会」(6月7日)

5歳児の砂遊びを数日間追った動画をもとに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から見た子どもたちの学びの様子と小学校へのつながりについて話し合い、新潟大学教育実践学研究科の中島伸子教授からご指導をいただきました。

### 協議題

- ① 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と思われるところ
- ② それが小学校にどうつながっていくか

### 協議会の様子

5歳児の砂遊びの動画をもとに、教師の援助と子どもたちの様子を説明



「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と、小学校へのつながりを協議



中島教授から、当日の保育も参観していただき、「幼小接続の大切さ」「5歳児の学びと育ち」についてご指導いただきました。



### 5歳児

### 砂遊びの動画

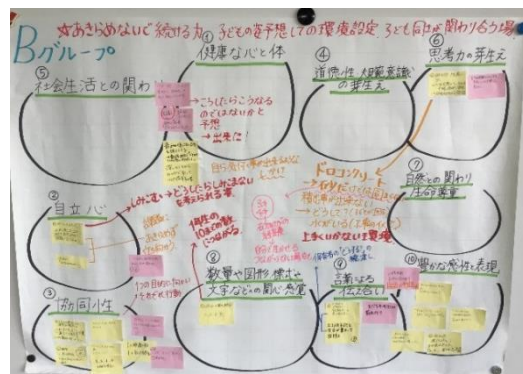


個人で楽しんでいた砂遊びから、2～3人で思いを共通にして遊びを進めるようになった子ども達。砂山から水を流して遊び、水が土の中に染み込んでしまい、水が流れない事に困る姿が見られた。その困り感から流れた水がどうすれば上手く流れるか、教師の問いかけから個々がアイデアを出し、思いを共通にしながら遊びを進めていった。

話し合われたことを発表し合い、意見を共有



「10の姿」の視点から、5歳児の学びと小学校へのつながりをまとめる。



# 砂遊びの様子と教師のかかわり

すぐに水が砂にしみ込んでしまう

C:ビニールを敷いてみたらどうかな？



水が流れるようにしたい

C:タライでバーンと水を入れよう！



水がたまってうまく流れない

C:ここがガタガタだから、平らにしないとダメ！



T:どうしたら平らにできるの？

C:引っ張ればいいんじゃない？



トンネルに水を流したい

T:(シートを)広げると穴に入らないよ。どうする？

C:穴をでっかくする。



T:穴をでっかくすぎて、前にドーンって崩れたよね。

C:何かで支えながらやっていく。



C:折るといいんじゃない？



トンネルから出た水をうまく流したい

T:A君、ここをどうすればいいの？



A君:ここを掘って平らにする。  
まず1回シートをとる。

T:B君、ここが山になっていて水が通らないんだって。A君、だからどうするんだっけ？



A君:掘って低くする。

水が横に流れないようにしたい

T:大成功だね。でもここどうなった？



C:水があふれた。

T:どうする？

C:白い砂で固める！

乾いた砂で壁を固めよう



協力して水を流そう



C:やったあ、(水が)曲がってる！  
よっしゃー！



C:すごい！もう1回(水くみに)行ってこよう！

教師が、子どもの言葉を拾い、アイデアを引き出し、子ども同士のかかわりを深めていた。子どもに問い掛けることで、思考力や自立心を伸ばし、自分たちでやり遂げた達成感につなげることができる。



協議会で話し合われた「10の姿」と小学校へのつながり（一部抜粋）

幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿	5歳児の砂遊びに見られた「10の姿」につながる場所	小学校のどこにつながっていくか
<b>自立心</b>	○砂に水がしみ込み、流れなくても、あきらめずに立ち向かう。	○小さな困難でも、最後まであきらめずにやり遂げようとする。
<b>協同性</b>	○数日間かけて、協力して一つの川をつくりあげる。 ○川に水を流すという目的に向かい、水を汲む子、道を付ける子と分業。 大きなタライは友達と力を合わせて運ぶ。	○ペアやチームで話し合い。 ○イベントや学校行事に向けて学級での話し合い。 ○友達と、グループ活動や掃除などを協力して行う。
<b>思考力の芽生え</b>	○繰り返し試してみる。 もっと水を流すには大きなバケツが必要 →まだ浸み込んでしまう→ブルーシートを敷こう。 ○流れをせき止める土手をつくろう。 砂だけでは固まらない→水がいる。	○なぜ・どうしてと考える力。 ○考えを伝え合い、自分の考えをより深める。 ○生活科・総合的な学習で自分の考えを表現する。
<b>自然との関わり・生命尊重</b>	○砂や水の特性を活かした、本物の体験。	○生活科や理科の自然のしくみへの興味関心。
<b>言葉による伝え合い</b>	○子どものアイデアを担当が橋渡しして引き出す。周りの子も聞いている。 ○「どうしたら水が流れるかな」「シートを引っ張って敷けばいい」と、思いの伝え合い。	○自分の気持ちや考えを表現しようとする力。 ○友達や先生との関係づくり。 ○国語の物語などで心情理解・気持ちの読み取り。
<b>豊かな感性と表現</b>	○足で感じる水や泥の感覚を味わう。 ○「白い砂」を固めて「泥コンクリート」 ○「海だ！海！」	○イメージする力。 ○体験して楽しかった思いを絵や歌や作文で表現。
<b>道徳性・規範意識の芽生え</b>	○友達に水がかからないように、周りを気に掛ける。 ○水がかかったときに「やめて」「ごめんね」	○相手を思いやった行動。
<b>数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚</b>	○砂山や水の流れの数のカウント。 ○水の量の比較。	○数や量の概念。
<b>健康な心と体</b>	○裸足で遊ぶ。	○体づくり運動。

## 砂遊びから展開した、室内での「牛乳パックコースター」

玉の転がる牛乳パックコースターを作りたい。



下に牛乳パックを立てて高さをつけよう。



玉がうまく転がるかな。



ぐらぐらする。もっとしっかりした台をつけよう。



スタート台も工夫しよう。



途中で玉が引っかかってしまう。



玉が止まらずに転がるようにしたい。



やり方を教師が教えるのではなく、子どもたち同士で考え、思いを声に出せるように支援していた。例えば、ジェットコースターの下に台を付ける際、ガムテープを輪にして貼る方法に戸惑っている子がいたら、「誰か、ガムテープを丸くするやり方を教えてあげて!」と投げ掛け、他の子が「こうやってつなげると丸くなるよ」と教えてあげるなど、友達同士の関わりが深まっていた。



## 5歳児から刺激を受けた、4歳児の砂遊びの様子

5歳のダイナミックな砂山づくりが見える場所で、4歳児も大きな山づくりに挑戦。



5歳

4歳

大きい組さんみたいに大きなお山を作りたい！



高いお山になあれ！



サラサラの砂を掛けると、白くなったよ！



湿った砂と乾いた砂の違いを活かしながら、大きな砂山づくりを楽しんでいた。

### 参会者の振り返りより

入学した子どもたちが、安心して学校生活を送れるように、幼児期に体験してきた「遊びを通した学び」を大切にスタートカリキュラムを実施していきたい。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が学校生活の中のいろいろな場面で見られた時に、価値づけていきたい。(小学校教諭)

小学校に行くまでの一年間でどんなことを身に付けて入学させたらいいか迷っていたので、今回の研修はとても勉強になった。やはり自立心は、小学生になった時に課題に向かう姿勢として学力に繋がるので、園の時から遊びの中で最後までやり抜く力をつけていきたい。また、自立心が育っていることで、協同性や思考力の芽生えなどにも繋がっていくことが分かった。

(園教諭)

園の子どもたちが、遊びの中で自分のやりたいことを実現させるためにどうしたらいいかを考える時が、小学校の授業における学習課題の設定だと知った。子どもたちが協力して遊ぶこと、自分の思いを言葉で表現すること、友達の考えに同調・反論して関わり合うこと、自分たちのやりたいことが完結するまで活動を継続すること全てが小学校での授業づくりと同じだと分かった。(小学校教諭)

### 考察

教師は、子どもからの発見や疑問に共感しながら、子ども自身が「どうしたらもっと良くなるだろう？」と考えたり、自分なりの思いを声に出したりできるよう支えた。そのアイデアや思いが友達に伝わるよう、教師が橋渡しを意識したことで友達に思いが伝わり、砂遊びが形を変えどんどん進んでいったと考えられる。このことから、友達の思いを聞いたり、やっている事を真似したりすることで仲間意識が生まれ、2～3人が同じイメージを持ち遊ぶことを楽しめる姿につながった。



## 遊びの中での学びと育ち

5歳児研究保育協議会当日は雨天のため、雨天案による室内遊びを参観していただき、砂遊びから展開した「牛乳パックコースター」についてもご指導いただきました。

### ボールを転がす坂道づくり 子どもたちの考えを引き出し、思いをつなげる



#### 個々の子どもの考えを引き出す

C「ここらへん持ち上げてないからじゃないか」

T「もちあげてないと何なの？」

C「もちあげないと、落ちちゃう」

T「あ、そういうこと」

T「だからね、今ね、ここに柱つけるんだって」

#### 考えや思いをつなげる

C「ガムテープで止めてくれない(とTに投げかける)」

T「誰かにお手伝いしてもらおうといいんじゃない。名前呼ぶといいよ」

### ボールを転がす坂道づくり



#### 先生のご支援の力点

- 以前の経験を生かして考えることができるように  
「昨日はどうやっていたかな」  
「お砂場ではどうだったかな」
- 個々の子どもの考えや思いを引き出し、受けとめ、一緒に考えて形として実現する支援  
→考えや思いを他者に伝えようとする意欲  
→考え、工夫をしようとする意欲
- 子どもたちの考えや思いをつなげる  
→友達に力を貸してもらおうとより楽しくなるな。友達の考えをとりいれると楽しくなるな。友達に考えを伝えるともっと楽しくなるな。

「既習事項」を押さえることに対応

「個別最適な学び」の充実に対応

「思考力の芽生え」「協同性」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」

「協働的な学び」の充実に対応

## 先生がいない時は

自分達で思いや考えをつなげながらという姿は、それほどみられるわけではない



だからこそ、個々の子どもの思いや考えをつなげる保育者の支援は、とても上手な「足場かけ」ということになる

しかし、ところどころで、自分達だけで考えや思いを伝え合いながら制作する姿がみられる。



「ねえ、つるつるになるようにしようよ」というCの声かけで、みんなでテープを貼る姿がみられた

子どもたちが自力ではまだできないけれど、援助があればできる部分を的確に見極めて支援されている。

## 接続・連携の重要性—幼稚園教育要領

### 小学校教育との接続に当たっての留意事項

#### (2) 小学校教育との接続

(2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

#### 接続・連携の力点の時代的変遷

「小1プロブレム」の解消 子どもの学校適応



資質・能力の連続的な育みを目指して  
幼児期の経験を生かしてさらに伸長していけるように

## 令和4年度 3歳児 砂遊びの環境設定と意図

月日	環境	意図
4月上旬		<ul style="list-style-type: none"> <li>園生活、担任に親しみを持てるようになる為にも、子どもたちの好きな遊び（ブランコ、滑り台）を一緒に楽しむ。</li> </ul>
4月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者が意図して砂場で遊ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂場に興味がない子も、保育者が砂場で楽しく遊ぶ姿から砂場に興味をもてるように。</li> <li>砂遊びを通して、開放感を味わえるように。</li> </ul>
4月下旬	砂場の道具を出す <ul style="list-style-type: none"> <li>スコップ（人数分）</li> <li>お茶碗（人数分）</li> <li>バケツ（学年の人数の半分）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すぐに遊び出せるように、砂場に道具を朝から出しておく。</li> <li>素手での砂遊びに苦手意識がある子も砂遊びを楽しめるように。</li> <li>お茶碗に砂を入れ、ごちそうなどの見立て遊びが楽しめるように。</li> <li>貸し借りをせず、自分のやりたいことをじっくり楽しめるように。</li> <li>年長児がバケツを使って遊ぶ姿から刺激をもらい「砂遊びをしたい！」という思いに繋がるように。</li> <li>バケツは、大きくて扱いきれない子の姿も予想される為、半分。</li> </ul>
5月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝のうちに砂場を濡らす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな砂の感触を楽しめるように。</li> <li>さらさらの砂と濡れた砂の違いに気づくように。</li> <li>年長児のような山を作りたいという思いを実現できるよう、土を固めたり、積み上げたりして遊びを広げられるように。</li> </ul>
5月10日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>型抜きを出す（人数分）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>茶碗だけではなく、いろいろな形の型抜きを使うことで、見立て遊びのイメージが広がるように。</li> </ul>
5月17日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>スプーンを出す（人数分）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作ったごちそうを保育者に「食べて」と持ってくる姿から、見立て遊びとやりとりがより楽しめるように。</li> <li>余計な貸し借りをせず、自分のしたいことをじっくりと楽しめるように。</li> </ul>
5月20日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>タライに水を張っておく。（気温25℃）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びの経過と今後の水遊びの展開、気温が高かったことを踏まえ準備する。</li> <li>暑い日に水遊びを経験することで、水に対する抵抗を減らし「楽しい」という思いを経験出来るように。</li> </ul>
5月25日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>裸足で遊ぶ（気温27℃）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>裸足になり砂の感触を感じられるように。</li> </ul>
5月26日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>泥遊びセットに着替えて遊ぶ（気温28℃）</li> <li>スコップ（学年の人数の3分の1）</li> <li>バケツ（人数分）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭から準備してもらった泥遊びセット（汚れても良いシャツ、パンツ）に着替える事で、汚れを気にせず楽しめるように。</li> <li>スコップの数を減らし、手で砂の感触を感じられるように。</li> <li>自分もいっぱい水を流したいという思いが実現できるよう、1人1個バケツを準備。</li> </ul>
6月1日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者が意図して桜の実を探しに行く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前日偶然見つけた桜の実を潰し、水と混ぜた事で色水になる。その面白さや桜の実があるということを他の子も経験したり、知ったり出来るように、保育者が率先して桜の実を拾いに行く。</li> </ul>

※5月26日以降は天気、気温によって、見立て遊びか泥遊びかを考慮して環境設定する。

（道具の数、机の有無、場所）



# せいろう幼稚園「3歳児研究保育協議会」(6月30日)

4・5歳児の学びの土台となっている3歳児の砂遊びの動画を見て話し合い、新潟大学の中島伸子教授よりご指導をいただきました。

## 協議題

- ①「3歳児が何を学んでいるか」
- ②「その学びを支えるために教師が大事にしていること」
- ③「①②が、10の姿のどこにつながっているか」

## 協議会

遊びの動画から、「3歳児の学びと教師の支援、10の姿へのつながり」を協議。

### 3歳児 砂遊びの動画



教師に作ってもらった泥団子に水を掛けると泥団子がとけてなくなる様子に驚き、自分でも作ってみようとするM児。バケツに水と砂を混ぜ、時折バケツの中に手を入れ、泥の感触を確かめるなど自分なりに試したり工夫したりしている。

園庭に落ちている桜の実をつぶして遊ぶR児。この日教師は“水の中で桜の実をつぶすと水の色が変わる”という面白さを感じられるよう、色の変化が分かり易い白い容器を準備する。R児がやってみると水の変化に驚き、さらに変化がないかと草を入れるなど試している。



中島教授から、事前に遊びの動画をご視聴いただき、当日も保育を参観し、丁寧なご指導をいただきました。

### 3歳児の学び 教師の支援



### 10の姿へのつながり

## 参会者の振り返りより

3歳児なりに様々なことを工夫し、砂や水の特性を感じ取っている姿が随所に見られ素敵な実践だと思った。それは子どもだけの力ではなく、道具の準備や活動の計画、先生方の声掛けがあったことで、幼児期に充実して遊ぶことができる環境をつくっている。

(園教諭)

「資質・能力」は外からつけるのではなく、育ちつつあるものを見極め、引き出していくことが大切。そのために、保育では環境構成と保育者の距離感を大切に支援が重要で、育ちつつある力を瞬時に見取る目を鍛える必要があることを学んだ。

(園教諭)

幼児期の姿を見たことで、より子どもたちへの声掛けや指導の仕方が変わらと思った。もうすでに習得している内容は簡単な説明で終わることもでき、逆に幼稚園と違ってここはレベルアップしたいというところも伝えることができる。幼稚園でつけてきた力をもっと担任が信じてあげることも大事だと思った。

(小学校教諭)

## 3歳児の学びと「10の姿」へのつながり (協議内容より)

### 自然とのかかわり

砂と水の性質に親しむ。乾いた砂と濡れた砂の違いや、混ぜる水の量による砂の感触の違いを楽しみ、確かめる。



### 豊かな感性と表現

泥団子に水を掛けとけてなくなる様子に「アイス！」



水に桜の実を入れてつぶして色水づくり。「きれい」「なんかシュワシュワみたい！」



### 思考力の芽生え

水の量で固さが変わることに関心、硬さは手の感触で調整。どうやったら効率よく砂を入れるか、スプーンや茶碗を使って試す。

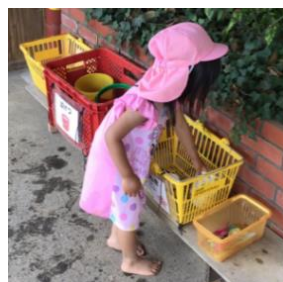


「むらさき色だ！」と言っていた色水を、スプーンですくくと透明に見えることに気づき、「スプーンですくってみると、透明になる！」と教師に報告。



### 道徳性・規範意識の芽生え

使った道具は自分たちで洗い、表示を見ながら分別して片付け。



使いたいけどどうすればいいかわからず、見つめ合う二人。友達が使いたいのに気付いて、「はい、どうぞ」と貸してあげたよ。





## 教師が大事にしていること（協議内容より）



### 満足できるように見守る

自分なりにじっくり取り組んでいる時は、そばで見守る。やってみたいという気持ちを大切に、誰にもじゃまされずに

良い距離感と立ち位置 = 小学校でも大事



### 一緒に感動し、認め共感する

喜びに共感する。認める言葉や子どもの気持ちを高める言葉掛けで自信をもたせる。失敗しても、もっとやってみよう

安心感と信頼関係 = すべての土台



### イメージを膨らませる言葉掛け

子どもの気付きを反復したり、言い換えたり、問いかけたり、思いを引き出す言葉掛け。身近なものに見立てて、イメージしやすい言葉掛け。「ガリ

見立てる = イメージの共有



### 子ども自ら活動できる環境設定

自分たちで必要なものを選んで使ったり、分別して片付けたりすることができる環境の工夫。視覚支援と場所の固定。

中身が見やすいように意図して色つきから白いカップに変え、子どもの気付きや感動を

視覚支援 = 小学校低学年や特別支援でも大事

## 考 察

3歳児でも遊びの中で試したり、工夫したりする姿が見られ、子どもたちなりに遊びから学びがあることが分かった。ただ、子どもは学んでいるという意識はないため、そこは教師が意味付けをしたり、「〇〇ってことだね」と子どもの考えを言葉にしたりすることは大切である。また、子どもたち一人ひとりがじっくりと自分のしたい遊びができる環境設定もとても大切である。同じ場で遊んでいても個々に違う楽しみ方があるのでそこを見取り、その子にあったかかわりや配慮をしていくことが大切であると協議会を通して改めて学ぶことができた。



## アイスづくり



### 学び

○見立て遊びの中で、砂や水といった素材と多様な仕方で繰り返し関わり、その性質や特徴に気づく。

(例) (イメージしたアイスを作るために) バケツに貯めた水に砂をどんどん入れかきまぜる/水をまぜて泥にした砂を丸く成形したり、つぶす(硬さを確かめている?) /先生が作った泥アイスに乾いた砂を何度もまぶしてみたり、最後につぶしてみたり(硬さを確かめている?)

(例) バケツにためた水の中に砂をどんどん入れるが、入れ方も様々に試す。最初は、スプーンから直接入れていたが、今度はスプーンで茶碗に入れてからバケツにいれる。さらにはスプーンに手で砂を山盛り入れることを試みてから、それをバケツにいれる。

○自分のイメージに合うものを作ろうとして、試行錯誤をする

(例) 茶碗に水をくんできてそこにスプーンで砂を入れてまぜ、それをスプーンで先生の手に乗せる。残りの分も茶碗をひっくり返して全部乗せる。「とろとろですね、〇ちゃん」と先生が言うと、スプーンで乾いた砂をその上にのせる。先生がそれを団子状にして〇ちゃんに渡すと、台にのせ、その上にさらに乾いた砂をかける。ときどきそれをさわりながらもどんどん乾いた砂をかけ、最後につぶす。→イメージどおりの硬さにするにはどうすればよいのか試行錯誤している。

○学び ■支援 □10の姿

### つながる10の姿

□思考力の芽生え(身近な事象に積極的にかかわる中で、物の性質や仕組みなどを感じとったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる)

□豊かな感性と表現(心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり～表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる)

□自立心(自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい)

□健康な心と体(充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ)

□数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

○学び ■支援 □10の姿

## 環境構成・支援

■用意する道具・素材の選び方：バケツ、茶碗、スプーンが用意されていたことにより、砂や水は入れたり、すくったりする対象となりやすく、砂や水の性質や特徴に注意が向きやすい遊びになりやすかったのではないか。

⇔用意してある道具・素材の種類や量が異なるとまた別の姿がみられたかもしれない

■〇ちゃんのイメージを言語化したり、イメージにそった先生の時折の言葉かけが、イメージの持続を可能にしたり、意欲を高めることにつながっていたのではないか。

（例）先生が「〇ちゃん、お団子おいしかった？アイスおいしかった？」と聞くと、「もう一個作る」といって駆け出す。

○学び ■支援 □10の姿

## 友達とのかかわり



○お友達とイメージが重なり一緒に楽しむ

（例）先生が作った団子に乾いた砂をふりかけまるめる作業をしていると、友達が「アイス？」と問いかけてきて、先生が「今Mちゃんアイス食べてた」と返す。お友達がスプーンをもって「パクパクパク」と食べるような仕草をすると、Mちゃんもお団子をつぶして、食べていることを表現

□協同性（友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し）

■子どものイメージや気持ちを代弁しながら橋渡しをする教師

○お友達の気持ちに気づいて、要望・依頼に答える姿

（例）窪地に茶碗で水を入れていると、お友達から「こっちに水をいれて」との依頼がある。先生からの言葉かけ（「入れてだって」）もあり、入れてあげる。

（例）先生がほった穴に茶碗で水を入れていたところ、Rから「海つくって」という依頼。「この子達の海つくってだって。〇ちゃんどうする？」との言葉かけに「こっち」といって水を入れていた穴を指さして示す。先生が「ここ、どうだって」と言葉を添える。

□道徳性・規範意識の芽生え（友達の気持ちに共感したり、相手の立場に立って行動するようになる）

■子どものイメージや気持ちを代弁したり、引き出したりして橋渡しをする教師の言葉かけ。決して指示的にならない配慮。

○学び □10の姿 ■支援

## 本日の保育から

- 経験のつながりを大事にした保育  
使ったことのある道具や素材、やったことのある動作。



水を使う遊びからプール遊びへ



## 最後に

- 何よりも大事にされていたことは、子ども一人一人の気持ちを考え、イメージをみとり、そこから遊びが継続・展開するよう丁寧に支援されていることだと感じた。
- 「資質・能力」は外からつける、与えるものではない。育ちつつある「資質・能力」を見極め、引き出して発揮させることでさらなる伸長をはかることが保育・教育の仕事。これが学びのつながりを作り出す。こうしたことを大事にされていることも感じた。

## 小学校へのつながり

(例) 豊かな感性と表現

「こうした幼児期の経験は、小学校の学習において感性を働かせ、表現することを楽しむ姿につながる。これらは、音楽や造形、身体等による表現の基礎となるだけでなく、自分の気持ちや考えを一番適切に表現する方法を選ぶなど、小学校以降の学習全般の素地になる。また、臆することなく自信をもって表現することは教科等の学習だけではなく、小学校生活を意欲的にすすめる基盤ともなっていく。」 (幼稚園教育要領解説P73)



## せいろう幼稚園「4歳児研究保育協議会」(10月13日)

4歳児のごっこ遊びを数日間追った動画を見て話し合い、新潟大学の中島伸子教授、下越教育事務所の小池満喜子指導主事よりご指導をいただきました。

### 協議題

『自分の好きな遊びを楽しみながら、友達と一緒にいる心地よさを感じられる子になるための教師のかかわりと環境構成』

- ①「教師のかかわりはどうであったか」
- ②「環境構成はどうであったか」
- ③「子どもたちの姿は、10の姿のどこにつながっているか」

### 協議会

遊びの動画を視聴し、「教師のかかわり・環境構成・10の姿へのつながり」について協議。

### 4歳児 ごっこ遊びの場面



友達との関わりが少なかった二人。自分の好きなものになりきって遊びながら、同じ場にいる友達と関わる心地良さを感じられるように、教師は幼児の思いの橋渡しをし、見守りながら遊びが楽しめるようにした。また、2~3人の気の合う友達の中で遊べるように環境設定したことで、お互いの動きや表現を真似したり、自分の思いを出したりしながら遊ぶ姿が変わった。

新潟大学の中島伸子教授より、子どもの関心に沿った教師の支援と環境構成についてご指導いただきました。



下越教育事務所の小池満喜子指導主事より、「幼児教育における主体的・対話的で深い学び」についてご指導いただきました。



### 参会者の振り返りより

日々、援助が行き届いているか振り返りながら準備をしているが、悩むことも多い。そのため、わくわくシートを使うことで、子ども一人一人の様子を振り返り、環境構成や援助を整理して活かすことができるので、シートはとても良いと思った。(園教諭)

幼児期は、自分の思いや見立て、なりきりで自己表現をし、思い切り遊ぶことで友達や周りの大人とのかかわりや育ちにつながっていく。そのためのアイテムや、安心して遊べる拠点づくりの方法、教師のかかわりについて学んだ。(園教諭)

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を掲げ、幼児教育を行っていることがよく伝わった。小学校は児童の記述や発言をもとに授業研究を行うが、幼稚園は、子どもたちが遊ぶ姿からどんな思考をしているのか、どんな手立てが有効なのかを探っていくことに驚いた。「小学校に確実に引き継ぐ」という言葉がありがたい。今後、小学校や他のこども園でどのようなことをしたらいいのかについて話し合いができるとよい。(小学校教諭)

## 教師のかかわり（協議内容より）

### イメージの橋渡し

○教師の具体的な言葉で同じイメージに近づく。

- ・イメージを膨らませる言葉掛け  
「ねこのえさって、どういうエサ？」
- ・なりきりの楽しさをアップする呼び掛け  
「〇〇ねこ」

教師と子どものかかわりを  
周囲の子どもが見ている  
「やってみたい！」  
「楽しそう！」  
「楽しい！」  
と繰り返し楽しむ姿に

### 子どもの思いや言葉をつなぐ

○子ども達の言葉を拾い、それぞれの思いを  
教師が橋渡しして伝える。

○タイミングを逃さない仲立ち

「ねこちゃん、〇〇しに来たんだって」  
「〇〇したいんだって」

T:ネコちゃんも運  
転しに来たの？



C:ニャー

T:ネコちゃん、運転していいって。  
あそこに車あるよ。今日はガソリン  
もあるみたいだよ！



T:ネコちゃんも運転  
しに来たんだっ  
て。いい？



C:うん

### ガソリンの給油

C:(一周)終わったら  
ニャーって言ってね。



C:ニャー



### ガソリン スタンドで 車の修理



子どものつぶやきに担任がすぐ反応し、遊  
びに入りたい気持ちを汲みとった。「ネコちゃんも運転しに来たの？」と声を掛け、友達と同じ場で遊びを楽しめるように教師は近くで見守りながら、子ども達同士の関わり合いを深めていた。



## 環境構成（協議内容より）

なりきって、すぐに遊び出せる環境

○ねこのお面など子どもがなりきれる物

周りの子からもなりきっていることが分かり、  
関わる姿につながる

○子どもから出たアイデアの実現

ねこじゃらし、ボールなど

自分の好きな物になり  
きることで、表現  
を楽しみ、友達とか  
かわるきっかけに。

ねこのお面をつけ、なりきって  
巧技台を四つん這いで



「あっ、ねこちゃん！」



「ねこちゃーん！かわいい」



ねこと追い掛けっこ



ねこじゃらしでかかわって



一緒にお散歩



安心できる場の確保

○数人で寄り集まり、じっくり遊べる環境。

- ・拠点があることで、安心や心地よさへ。
- ・お互いの声が聞こえる距離感から、思いを出す姿に。

どんな遊びにも見立てられる道

○個々がなりきって動きを繰り返し楽しめる環境  
設定と教師の声掛け。

- ・巧技台を山に、ゴムひもを川に見立てる。
- ・「忍者は川の下をくぐるんだね！」





環境構成と教師のかかわりにより忍者になりきって！

忍者のお面やベルトを付けることで気持ちは忍者に！教師の動きを真似し、巧技台やゴムひもを修業の場に見立てることで忍者になりきって楽しんでた。



忍者の動きを真似て、サササッと移動



山を越え、川にもぐり



T:忍者は川の下をぐれるんだね！

主な10の姿へのつながり（協議内容より）

#### 健康な心と体

ねこのように動いたりダンボールの車で競争したり、やりたい遊びを楽しむ。

#### 道徳性・規範意識の芽生え

車を順番に交代して使う。  
巧技台を、順番を守って渡る。

#### 言葉による伝え合い

「(車で一周)終わったら、ニャーって言ってね」「ニャー！」

#### 社会生活とのかかわり

ガソリンスタンドに見立てて、給油や修理をする。

#### 協同性

車の運転・給油係・トンカチの修理と役割分担し、それぞれの役を楽しむ。

#### 豊かな感性と表現

ねこや忍者になりきって、様々な動きや言葉（鳴き声）を楽しむ。

## 考 察

4歳児にとって遊びを楽しむ為に、2～3人で寄り集まれる場と誰でも寄れる場の両方が重要だった。衝突などを使い安心できる場、自分達の場を設定した事で個々が自分のしたい遊びをじっくり楽しむ姿があった。また自分なりになりきっているからこそ、自ら遊びに入っていく、友達と同じ場で遊ぶ事の楽しさにつながっていった。なりきって表現する事は、周りにいる友達と関わるきっかけになる事がわかった。

子ども達同士の思いの橋渡しを大切にすることで、同じ場にいる友達のイメージを知ったり、自分の思ったことを言ってみようとしたりする姿につながった。教師は子ども達の遊びを見取り、遊びに入ったり、近くで様子を見たりし、必要な時に援助するなどの関わり方をする事も大切だと感じる事ができた。

## 新潟大学教育実践学研究所 中島伸子教授からのご指導より

事前に4歳児の遊びの動画を見ていただき、なりきって遊ぶ様子についてご指導いただきました。

### 4歳児の姿から一猫になりきる・猫のようにふるまいたい



平均台を猫のようにして渡り、別の猫と頭を擦り合わせてじゃれあい、まさに猫になりきっている姿がよく表れています。

猫のさまざまな特徴を身体や行動で表現する  
＝猫のイメージを身体表現として表したい思い



猫になりきること、猫らしさが自然にお友達を惹きよせ、  
かかわりをうむ・表現が広がる



たくさんの友達とのかかわりが生まれ、楽しかったに違いありません。最初、関心はあくまでも猫になりきり猫のようにふるまうことでしたが、友達がかかわってくることで、身体表現も広がっていったと考えられます。



## チャレンジ—お家の修繕

## —一緒にお家修理—より協力的な関係へ



猫になりきったことが楽しく、この猫ハウスが大事だという思いがあったからこそその修理で、修理したいという強い気持ちが、協力関係を支えるのだと思います。

## 遊びの姿から 学んだこと

- 「関心をもつ」「熱中する」（猫になりきって遊ぶ）ことが十分補償される中で、その遊びの魅力にお友達が惹きつけられ、自然に友達とのかかわりがうまれる。それは一緒にいる心地よさにつながりうるものではないだろうか。
- こうした経験が、のちのチャレンジ（お家を修理する）やお友達との協力関係の土台になったのかもしれない。

## これからの学び に向けて

- 猫のイメージや表現についてより学びを広げ、深める方向への支援
- 猫の観察と身体表現を行き来する
- 他の表現媒体（絵や粘土など）に広げていくこと。
- 他の動物に広げていくこと

## 猫として他者とのかかわりあいたい



猫のふりを楽しんでいて、一見同じ遊びをしているように見えても、関心のありかが異なり、猫として散歩をされたり、えさをもらったりすることを楽しみ、常に友達とのかかわりに関心があったと思います。



## 子どもの関心に沿った教師の支援と環境構成



猫のふりという一見同じような遊びに見えて、関心のありかが相当異なっていた時に、先生が関心のありかを見取って、支援を柔軟に変えていたことに感心しました。

### 担任のかかわり【猫になりきることを楽しんでいるとき】

- 十分に猫の世界に浸り、表現できるよう、不要なかかわりをしない。
- 教師が表現のヒントを示す（実際に平均台をわたってみる）
- 猫の世界を一緒に楽しみ価値づける（ボール遊びをする）
- 修理したい気持ちをみとり、お友達と協力しての修繕へつなぐ
- 猫のおうちがあることの意味

### 担任のかかわり【猫として他者とかわりあいたいとき】

- お友達とつなげることへのサポート

## 各学年の遊びの実践

### 3歳児「ごっこ遊び」の様子



#### おままごと

ウサギのお母さんにご飯の準備。ハサミでチョコキン、ご馳走を作るよ。

「早くごはんの準備しなくちゃ！今日はうどんヨ！みんなもうさぎ母さんのお手伝いよろしくネ！」

#### ねこちゃんの散歩

「私たちネコちゃんよ。」

「これからお散歩行くの！」

「今日は公園で滑り台するんだ！」



#### おさかなになって・・・

魚になって泳いでいるよ。

「先生に釣られちゃう！」

「ざぶ～ん！バシャバシャ！びちびちっ！」

お水の中は気持ちいいネ～🌊」

#### だいくさん

大工さんになってお家を修理中

「トントントン！トントントン！」

ここ壊れてますね～🔨

大工さんにおまかせあれ！」







### 船に乗ってレッツゴー！

船にご馳走を積んで犬さん、魚さんと出発！！

「ごちそうOK? 犬さん乗った?

お魚さんも乗ってる?」

「レッツゴー！」

### お友達と一緒に

荷物運びも大工の仕事！

お友達と力を合わせて

「ワッショイ、ワッショイ」

「これくらいあれば、お家できるかな～?」

「一緒に運ぼう！わっしょい！わっしょい！」



### みんなでお花見☆

「ジュースで乾杯～」

「ポテトも美味しいよ」

「私は、どんぐりご飯」

### 大きなカブ

クラスみんなで大きなカブごっこ

「うんとこしょ、どっこいしょ、

それでもカブは抜けません」

「もう1回やってみよう！」





## 4歳児「砂遊び」の様子



### ごちそう作り

「私はハンバーグ作ったよ」  
「私はカレー！カレーはトロトロだから、もう少しお水いれなくちゃ！」  
と、水の量を加減して何度も感触を確かめながら、自分が作りたいもののイメージに近づけていきます。

### 遊びの満足感

小さな入れ物があることで、『たくさん作る』ことを実現させます。  
「見て見て！いっぱい作ったの」  
楽しいことはくり返しじっくりと楽しみ、遊びの満足感につながります。



### 川から海へ

大きな水たまりを「海」に見立てて小さな川が、いつしか大きな海へ…。  
「トロトロで気持ちいいね～！」

### イメージの広がり

「海って、お魚いるよね！」  
「これは、お魚のエサなんだよ！いっぱい集まったら、釣って食べよう！」  
と、教師に思ったことを伝えながら、どんどんイメージが広がっていきます。





### 寄れる場で…

「〇〇ちゃん、何作ってるの？」

「私はおにぎりだよ」

と、自分のやりたい遊びを楽しみながらも、教師が意図的に置いた一つのテーブルを共有することで、友達がやっていることにも興味を持ち、会話や遊びのやりとりが生まれます。

### やってみよう！

「色が変わった！魔法みたい！」

「ドロドロになってきたよ！」

と、個々のペットボトルがあることで、たくさんの試しや気づきが生まれ、楽しさにつながります。



### 大きい組さんみたいに…

「うわあ～！（水が）来た来た！」

5歳児の姿に刺激を受け、大きなスコップを借り、砂山の周りに道作り。

水を流すことを繰り返し楽しめます。

### 友達と力を合わせて

「大きい山を作ろう！」

「大きい穴を掘って水入れよう！」

など、簡単なイメージを友達と共有し、

「今度はこっちを掘ろう」

「もっと長くしよう」

と、イメージの実現に向けて、自分のやりたいことを友達に伝えながら力を合わせる姿が見られるようになります。





## 5歳児「ごっこ遊び」の様子



### お店屋さんごっこ

最初は、同じクラスや同学年の友達がお客さんになってくれて、プレオープン。他のグループの遊び・環境・お客さんへの声のかけ方など、お互いに良い刺激となっています。



### 初めてのお客さん

3・4歳児がお客さんになって来てくれました。やり方など、自分たちはわかっているけど、小さなお客様にもわかるように伝えるのは難しい様子…。どうしたら上手く伝わるか、チームで相談を繰り返していきます。



### お店の看板作り

「こういうのを描いておけば、どんなお店が分かりやすいね!」「〇〇はどうか?」など、チームの友達とイメージを共通にし、協力しながら看板を描いています。



### 役割分担

「誰がやり方を説明する?」「チケットは誰がもらう?」「ここには誰が居る?」など、その日誰が何の役割をするかチームのみんなで相談し、共通理解して進めていき





### 参観日

お家の人を招いてオープン。お家の人にお客さんになってもらい、自分たちが楽しんできた遊びをお家の人にも楽しんでもらいました。自分の役割を意識したり、友達と協力し合ったりする様子を見てもらいました。



### 閉店

自分たちの楽しみから始まり、お客さんを招いての“お店屋さんごっこ”に発展しました。完全閉店の前に、3・4歳児をもう一度招待し、売り尽くし・遊び尽くしセール開催。ここまでの経験や気づきを活かし、説明の仕方や役割分担もばっちり！





# 「活動写真」

～春～

3歳児「甘くておいしいミニトマトにな～れ！」



4歳児「さつまいも苗は、寝せて植えるんだよ」



5歳児「桜のお花、み～つけた！」



～夏～

3歳児「お水、気持ちいいね～」



4歳児「みんなでやってみよう！せ～の！」



5歳児「ゴール目指して！」





～秋～

3歳児「もっと欲しいな…（やきいもパーティー）」



4歳児「落ち葉のシャワー」



5歳児「負けないぞ！！」



～冬～

3歳児

「ぼくたち力持ち！

ワッショイ！ワッショイ！」



4歳児「やったなー！それっ！」



5歳児「サンタさん、ありがとう♡」





# あ と が き

令和4年度、唯一の町立幼稚園として誕生したせいろう幼稚園。教育目標に『豊かな心をもち、いきいきと遊ぶ子ども』の育成を掲げ、子どもたち一人一人の力を伸ばすために、教師の資質・指導力の向上と、子どもたちの発達に応じた援助や環境づくりに努めてきました。また、幼小の円滑な接続を意識した指導を行ってきました。

子どもたちの様々な資質・能力を伸ばすためには、保育の質を高める必要があります。指導力の向上に向けて研修にも積極的に取り組んできました。令和4年度は、町内研修として「町立園・私立園合同研修会」が7回開催され、そのうち3回は「町立園・私立園・小学校合同研究保育協議会」として、せいろう幼稚園で研究保育を公開し、小学校教諭も交えて園での学びと幼小の接続について協議を重ねてきました。

そこで、今年度せいろう幼稚園で職員一丸となって取り組んできた研修の成果を実践集録としてまとめ、町内各園および小学校に配布することにより、今後の町全体の幼児教育の充実と幼小の円滑な接続に大いに活用されることを願っております。

聖籠町幼児教育センター  
幼児教育アドバイザー 鈴木裕子

---

## 令和4年度 聖籠町立せいろう幼稚園 実践集録

令和4年2月

編集 聖籠町立せいろう幼稚園  
園長 西村美紀 副園長 若月美保  
5歳児担任 相馬郁 5歳児担任 高加茂佳代  
4歳児担任 羽田祐子 4歳児担任 佐久間結莉  
3歳児担任 山下聡子 3歳児担任 齋藤美奈

聖籠町幼児教育センター  
幼児教育アドバイザー 鈴木裕子

発行 〒957-0106  
新潟県北蒲原郡聖籠町大字蓮潟 2890 番地 2  
聖籠町立せいろう幼稚園  
TEL(0254)27-5015 FAX(0254)27-1702